婚約者は十六歳

燈子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

婚約者は十六歳

【Nコード】

N7734Q

【作者名】

燈子

【あらすじ】

五男二女の子供と六人の孫に恵まれ、楽しい余生を送っていた為吾郎。

畑仕事中に意識を失った彼が目覚めたとき、そこは見知らぬ世界が広がっていた。

「儂、これでも八十五歳なんじゃが……」

「ここはどこかの」

後頭部の鈍痛に顔を顰めながら、為吾郎はあたりを見回した。どう見ても自分の畑ではない。というか、どう見ても森の中。それよりも、自分の声に違和感を感じる。

老人の声とは言えない、寧ろそう、変声期前の少年のような声だ。

「なんと」

改めて自分を検分した為吾郎は、唸り声をあげた。

顔を見てみないと何とも言えないが、おそらく十歳かそこらではないか。

「若返りすぎじゃろう」

さて、どうしたものか。

焦ったところで事態が進展するとは思えない。

生き物の気配も感じられない。

「とりあえず、一休みするか」

誰に聞かせるわけでもなく呟き、後頭部の鈍痛が消えるまで、と為吾郎は近くの木に背中を預けた。

「やっとみつけましたわっ」

突然の声に、為吾郎は眼を開け立ち上がる。
軽く眠っているうちに鈍痛は消えたらしい。

何度が瞬きをし、ドレス姿の少女に首を傾げる。

可愛らしい顔立ちの少女は、今年十六になる孫の絢乃と同じ位だ
ろうか。

二重の大きな瞳をきらきら、というよりもぎらつかせて為吾郎に
にじりよってくる。

なんとなく、腹を空かせた愛犬の太郎丸を思い出しながら、とり
あえず身の安全を確保すべく同じ距離を後ずさった。

「どうして、逃げるんですのっ」

じりじりと前に進む少女を視界に収めながら、後ろに歩を進める。
その無言の攻防を数回続けた末、少女は榛色の瞳を潤ませながら
叫んだ。

(少し大人気なかったかのう)

捕まったら何となく面倒な事になりそう、というか第六感が危険
を告げていたので、できれば距離を開けて話しをしたかったのだが。

「すまんが、この距離で話せんかの」

「嫌ですわ。お近くでお話したいんです」

間髪を容れず、却下された。

不満げに頬を膨らませる様子が孫と重なり、為吾郎は絆される。

結局、手を伸ばせば触れられる位置で話す事に同意すると、少女
は嬉しそうに為吾郎の前に立った。

「私はジャスティン国の姫、エメラダ・ナーガ・ジャスティンと申しますわ」

カタカナ語満載攻撃を受けた為吾郎は、一瞬思考が停止する。

「年は十六になりました。という訳で」

脳内で言葉を再生し、理解しようと試みている為吾郎を置き去りに、エメラダは満面の笑みを浮かべた。

「私と結婚して下さいな」

「……エメラダさん、でいいのかな。年の差がありすぎるかと思うんじゃないよ」

現在の外見はともかく、本来の自分は八十五歳だ。

年齢七十歳差はいかなものか。

そもそも、会って名乗る前に結婚を迫られて肯く者がいるのだからうか。

為吾郎は、至極真つ当な感性の持ち主だった。

「年の差なんて関係ありませんわっ」

突然がっちりと為吾郎の両手を握り締めて、少女は頬を紅潮させ高らかに吠えた。

「これはそう、運命の神シャー・バスティラのお導きですよっ」

突然の聞き慣れない言葉に、思わず聞き返す。

「し、しゃばすて……?」

が、上手く発音出来ない。

(そういう所は変わらないのか)

為吾郎は小文字の発音が苦手だった。

「シャー・バステイラですわ。かの女神も年下の変革の神ダナイ・ルーカエと結ばれたのです。ですから私たちと同じですわねっ」

軽く肩を落とした為吾郎に気付く事なく、うっとり陶酔したように、喋り続ける少女の言葉に、神さまの名前らしいと理解する。

最も、よく聞き取れなかったが。

なんとか聞き取れた部分に、為吾郎は訂正を入れた。

「いや儂、八十五歳なんじゃがのう」

十分な声量だったはずだが、残念な事に、延々と『神さまの運命の出逢い』とやらについて語る少女には届かなかった。

こちらを見てはいるが、すっかり自分の世界に入っている。

聞く耳持たず、とはこの事だと為吾郎は嘆息すると空を仰いだ。

(嗚呼、お天道様が目に滲みる)

(それにしても、誰か他に人は居らんのだろうか)

エメラダと名乗った少女を保護する大人は現れない。

(まさか、森の中に一国の姫一人では入るまい)

そうだと行ってもらいたい。

疑問に答えてくれるのは目の前の少女のみ。

神さまの馴れ初めについては……まだ終わりそうに、無い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7734q/>

婚約者は十六歳

2011年6月8日08時37分発行